

提 言 書

(水害に強いまちづくりをめざして)

平成18年3月

狐川流域内水対策連絡協議会

はじめに

「狐川流域内水対策連絡協議会」は、狐川流域の総合的な浸水対策を推進するため、行政と地域住民が協働して対策を立てるために設置された。

行政からは河川部局と下水道部局はもちろん、農林、都市政策、危機管理といった関連する部局の参加をいただき、また、地域住民代表として自治連合会会長と市民団体代表の方々の参加をいただき、学識経験者を含めて、平成 17 年 5 月に第 1 回の協議会が開催された。

協議会の設立趣旨は、以下のとおりである。

協議会の設立趣旨

一級河川狐川流域の木田地区、月見・みのり地区及び社地区においては、都市化の進展や近年の局地的な集中豪雨により、浸水被害が度々発生し、住民の生活が脅かされている。

この浸水対策として、下水道で対処する雨水幹線の整備、貯留施設の設置などと河川で対処する改修事業など各種対策と連携し、一体的に取り組むことが必要である。

このため、県市をはじめ学識経験者や地域住民も参加する連絡協議会を設立し、総合的な浸水対策について審議し、知事や市長に提言をする。

本協議会は、約 1 年をかけて 5 回の協議会を開催し、狐川流域における浸水現況の把握と課題の整理を行い、降雨時の流出再現モデルを作成して浸水対策案の比較検討を行ってきた。この間、事務局が中心となり作業部会や勉強会も開かれた。

ここに、これまでの審議内容を集約し、『水害に強いまちづくりをめざしての提言』としてとりまとめた。

水害に強いまちづくりをめざしての提言

現 状

狐川は、日野川、足羽川の南西をゆるやかに流れる内水河川である。狐川流域は、福井市中心部まで2kmから5km程度の距離に位置し、昭和40年代からの急速な都市化の進展にあわせて、河川や水路の整備が進められてきた。

しかしながら、都市化による流域保水機能の減少と局地的な集中豪雨の多発等が原因となり、平成16年には月見・みのり地区や木田地区では5回、社（南・北）地区でも2回の浸水被害が地区内の地盤の低いところで生じている。

基本方針

“水害に強いまちづくり”のために、河川・水路の整備（ハード対策）に流域保水機能の向上（流域対策）、情報伝達や防災意識の向上（ソフト対策）を加え、流域住民と協働して総合的な浸水対策を推進する。

対策目標

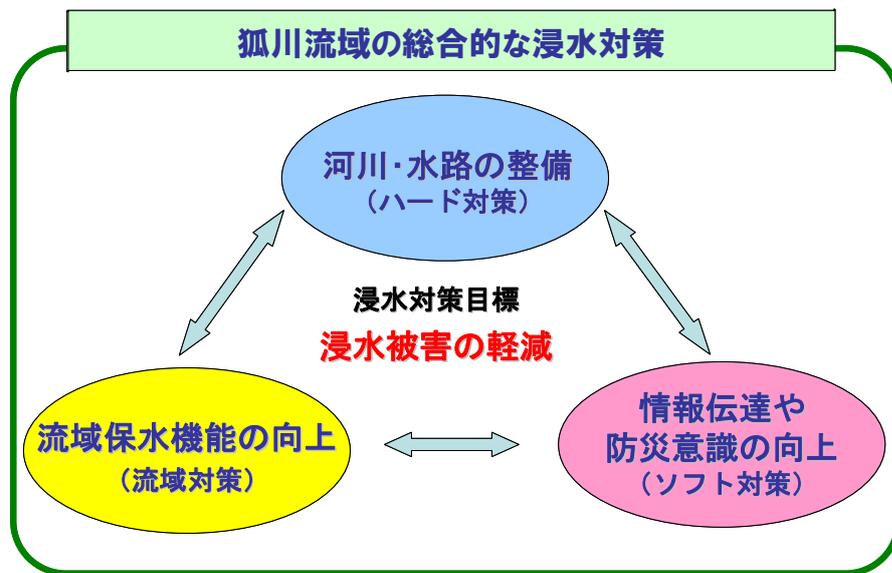
総合的な浸水対策の達成には長い期間を要することから、短期（概ね5年）と長期に分けた目標を定める。

短期：平成16年台風23号の降雨に対して浸水被害を発生させない。

長期：短期目標を上回る降雨に対して浸水被害の軽減を図る。

狐川流域の総合的な浸水対策は、安全・安心・快適な生活を確保するため、次のような河川・水路の整備（ハード対策）、流域保水機能の向上（流域対策）、情報伝達や防災意識の向上（ソフト対策）を可能な限り早く着手し、また流域住民にわかりやすい形で進められることを強く望む。

対策内容



1. 河川・水路の整備（ハード対策）

流域内で浸水被害が多発する地域に対しては、地形や環境に配慮し、次のような雨水排除施設や雨水貯留施設などの整備事業を促進すべきである。

短期対策（概ね5年以内の達成）

- 日野川河川改修事業の早期完成（日野川水位の低下）
- 狐川排水機場のポンプの増設
- 社 地 区 社雨水幹線と狐川合流点付近にゲート・ポンプの設置
社雨水幹線流域内での雨水貯留池の設置
- 月見・みのり地区 山奥雨水幹線等の改修
雨水貯留施設の設置
ポンプ排水施設の設置（ポンプ運転調整ルールの取り決めを含む）
- 木 田 地 区 木田橋通りに雨水貯留管の設置
木田川上流域での雨水貯留池の設置及び未整備区間の改修

長期対策（継続的な対策）

- 旧足羽川河川敷を利用した河道内貯留池の設置
- 月見・みのり地区からの雨水を排除する水路の新設
- 狐川JR橋梁部から上流の未改修区間の河川改修

2. 流域保水機能の向上（流域対策）

雨水を流域内に保水するためには、道路、公園等の公共用地として流域面積の約3割を管理する行政と、宅地、田畑、山地として流域面積の約7割を管理している流域住民と事業者が互いに役割分担して、次のような雨水貯留の対策に直ちに取り組むべきである。

行政の取り組み

- 公共空地（道路、公園、学校等）における雨水貯留施設や雨水浸透施設の設置
- 道路舗装に透水性の高い材料の使用促進
- 流域住民と協働して取り組める制度等の早期策定 など

流域住民や事業者の取り組み

- 民間駐車場における雨水貯留施設や雨水浸透施設の設置
- 家庭用雨水貯留槽の設置や不要となった浄化槽を再利用した雨水貯留
- 水田の排水調節による田面貯留
- 農地、山地の保全 など

3. 情報伝達や防災意識の向上（ソフト対策）

平成16年7月の福井豪雨に対する住民意識調査では、情報伝達の不足や避難行動において多くの方が危険を感じており、これを踏まえて、浸水被害の軽減に向けて行政と流域住民とが連携を強化し、次のような対策を直ちに行っていくべきである。

降雨、水位等の情報システムの確立

- 正確で分かりやすい情報を迅速に知らせる情報システムの整備
 - ・ 屋外拡声器による防災情報管制システム
 - ・ 気象情報や災害緊急情報をインターネットや携帯電話にメール配信
- 水位計測器の設置によるデータの収集及び情報提供

水防・避難体制の強化

- 自主防災組織の結成、育成の支援など行政と流域住民との連携強化
- 地域防災活動の拠点整備
- 降雨による浸水の想定や避難に関する情報提供

防災への取り組み

- 浸水被害を軽減できる家づくりの工夫（敷地や基礎の高上げ、間取りや材料の工夫等）
- 土のう設置等による浸水防御 など

狐川流域の浸水対策(ハード対策)

水害に強いまちづくりをめざして

浸水対策	
	貯留施設
	ポンプ施設
	河川水路整備
※破線は長期計画	

木田地区の浸水対策

木田町(木田通り)

降雨
公共空地
貯留施設
河川等

JRから上流部河川改修

日野川合流点

日野川
●堤防の規模
幅4.3m×高さ3.2m×4門
●排水機場の規模
排水量5-7m³/分

日野川合流部の浸水対策

狐川排水機場
ポンプ増強

狐川河道
内貯留

社地区の浸水対策

若杉3丁目 みどり図書館

社雨水幹線 → 貯留施設

山奥雨水幹線

月見みのり地区の浸水対策

月見3,4丁目付近

ポンプ施設

水路の拡張や掘り下げが困難な区間

貯留施設

狐川JR上流

凡	例
	狐川流域界
	狐川
	雨水幹線
	浸水常襲地区
	大規模公園